あまごつぼ

① 雨乞いの壺

～鹿島神社の伝説その２～

企画・脚本　齋藤良治

絵　引地昭夫

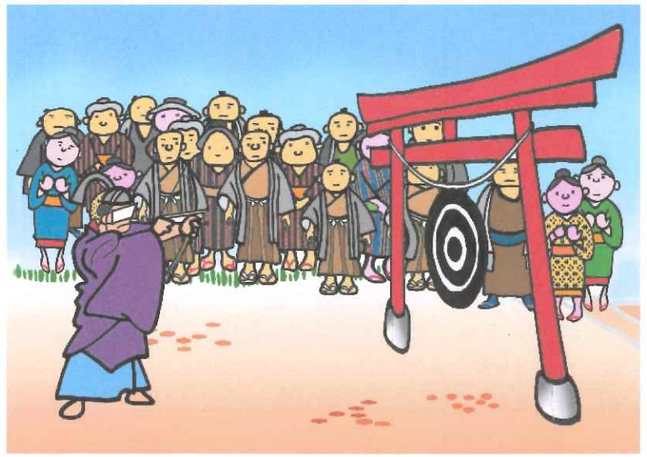
製作協力　丸森町教育委員会

雨乞いの壺

～鹿島神社の伝説その２～

②

鹿島神社には
「雨乞いの壺」という不思議な力を
持っている壺が伝わっています。

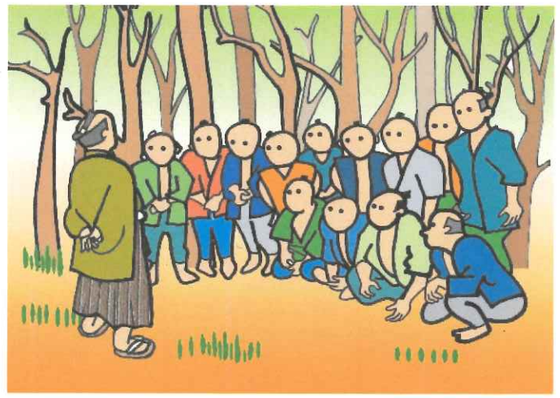


③

今から三百七十年ほど前の
寛永（かんえい）二十年のことです。
佐藤清信（さとうきよのぶ）という小齋の殿様は、
家来の弓がもっと、もっと上手になるように、
そして、豊作が続き、村人が豊かに
なるようにといつも願っていました。
殿様は、このことを神様にお願いするため、
鹿島神社の境内（けいだい）で弓矢（ゆみや）を使って的に当てる
奉射祭（やぶさめ）の行事を始めました。

④

しかし、残念なことに奉射祭はだんだんと
すたれてきてしまいました。
次の代の殿様、佐藤易信（やすのぶ）様は、
このことを大変に心配して、
奉射祭を昔のように盛んにしたいものだと
いつも思っていました。
「今まで奉射祭を行っていた神社の境内
ではせま過ぎる。もっともっと広くして、
奉射祭を盛大にしなければならない。」
と考えました。



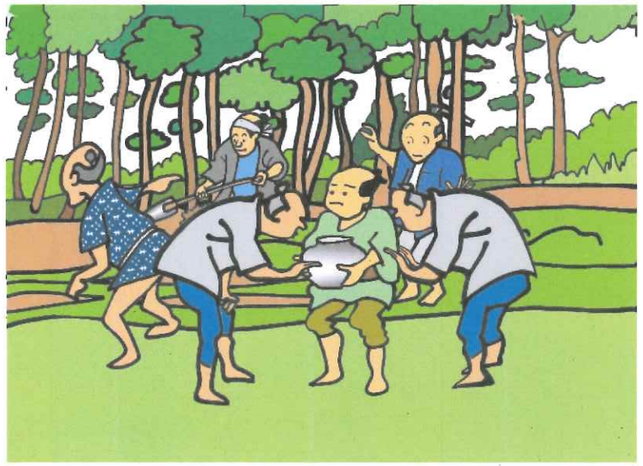
⑤

今から三百二十年ほど前の
元録三年二月二十日、

殿様は、村人を鹿島神社に集めて
「これから、奉射祭を今までよりも、
もっともっと盛んにしたい。
弓を射る的場を新しく造る工事をする
ことにした。大変、苦労をかけるが、
一生懸命に働いてくれ。」
と、話しました。

⑥

村人は、朝早くから何十人も出て、
山から土を運び出したり、
沢に土を入れて平らにしたりと、
一生懸命働きました。



⑦

どんどんと土を掘り進んだ午前十時頃、

「カチン」

と音がして、何かが鍬先（くわさき）に当たりました。

不思議に思って、ていねいに掘っていくと

なんと高さ三十センチほどの鼠色（ねずみいろ）をした

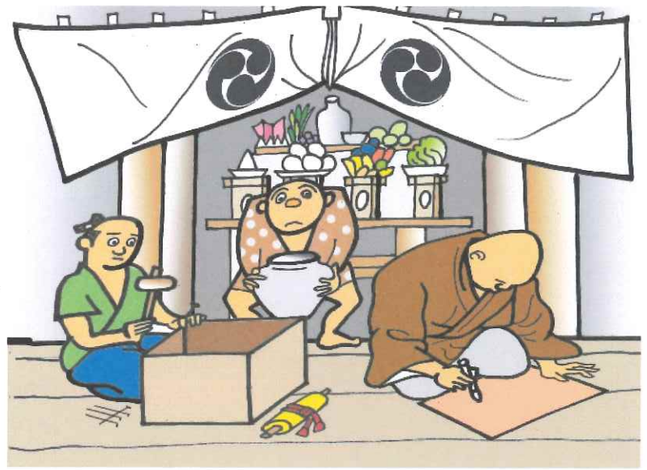
立派な壺が土の中から出てきました。

さっそく、殿様と神主さんに

このことを知らせました。

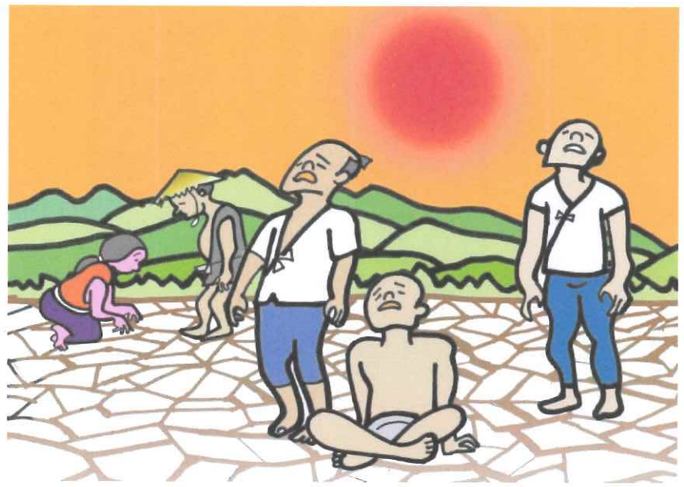
⑧

殿様を始め、神主さん、お尚（しょう）さん、
村の役人が集まって、
この壺をくわしく調べました。
この壺は、
鹿島大明神の神様がさずけてくれた、
非常に貴（とうと）い壺であることが分かりました。



⑨

小齋村の遊仙寺の和尚さんは、
宝の壺が発見された様子を
箱にくわしく書きました。
そして、
「小齋の殿様が
これからも益々栄えますように。
日本の国が平和で、村人も幸福になるように。
こんなにめでたいことはない。」
と最後に書き加え、箱の蓋をしっかりとしめ、
蔵の中に納めました。



⑩

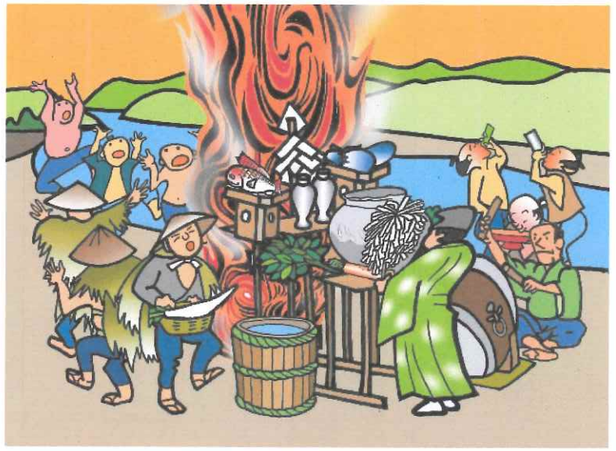
それから五十年ほどの時が過ぎました。

その年は、何日も全く雨が降らず、
小齋村にも、一粒の雨も降りませんでした。
太陽がカンカンと照りつけ、
田んぼや畑はひび割れ、
稲や野菜は、干からびて、
村人たちは大変に困ってしまいました。

⑪

そこで、村人たちは、
「宝の壺の力をお借りして、雨が降るように
〈雨乞い〉のお祈りをしたい。」
と神主さんにお願いをしました。

「よろしい。鹿島大明神様が下さった
宝の壺である。きっと村人の願いを
聞き入れてくれるだろう。」と、
「雨乞い」のお祈りをすることになりました。



⑫

神主さんと村の人たちは、
宝物の壺と巻物をもって、
阿武隈川の川原に行きました。
壺の前には、お酒や魚、
果物、野菜をたくさん供えました。
神主さんは、うやうやしく
「雨乞いのご祈祷」を始めました。
しばらくたった時のことです。
（半分抜く）
まっ黒い雲がまたたく間に、
空一面に広がったかと思うと

⑬

「ゴロゴロ！　ゴロゴロッ！」
と、雷が鳴り出し
「ピカピカ！　ピカピカッ！」と稲妻も光り、
大粒の雨がざあざあと降り出しました。
みんなは鹿島大明神様のおかげだと
大変に喜びあいました。

⑭

しかし、喜んだのもつかの間。
困ったことに、
激しい雨は止むことがなく、
何日も、何日も、
ざあざあと降り続きました。

⑮

ついに、阿武隈川からは、
濁(にご)った水があふれ出し、
「遅れると、水に流される。
お年寄りや子どもを背負って
高いところににげろ！」
村人たちは、必死に逃げました。

⑯

しかし、
阿武隈川はどんどんと水かさを増して、
堤防は切れ、家や舟も、
田や畑までも流してしまいました。

何日かして、
さすがの大洪水もようやくおさまりました。

⑰

村人たちは、水害の跡を眺めながら
「宝の壺は、雨乞いのお祈りが効きすぎる。
また、この壺を持ち出して雨乞いの
お祈りをすると洪水になってしまう。」
と思いました。
神主さんや村人は、
再びこのような洪水が起きないように、
この壺と雨乞いの巻物をもう一度箱に納め、
壺にはしっかりと蓋をして、釘を打ちつけ、
厳重（げんじゅう）に神社内に納めたのでした。

⑱

このような洪水（こうずい）があってからは、
宝の壺を使って
「雨乞い」をすることはありませんでした。
それから、
この壺は、不思議な力を持っている
「雨乞いの壺」といわれるようになりました。

今でも鹿島神社の宝物として、
大切に伝えられています。

おわり